

Title	適応型新製品開発の研究
Sub Title	
Author	茂木奈津美(Mogi, Natsumi) 池尾恭一
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1990
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1990年度経営学 第731号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001990-0731">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001990-0731</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	茂木奈津美	主査	池尾 恭一
		副査	嶋口 充輝
			奥村 昭博
所属	池尾 恭一 研究室		

## 適 応 型 新 製 品 開 発 の 研 究

新製品の開発は、企業の業績を大きく左右する四大領域の一つであり、多くの調査で繰り返し重要であると主張される領域である。製品ライフサイクルが短くなってきた現在、新製品の開発と現在製品の縮小・廃止などによって企業の製品構造を変えるとといった取り組みが、多くの企業で重要視されてきている。一方、新製品の開発のための費用も増大しており、さらに新製品開発では失敗も多い。どのようにしたら、失敗のリスクが少なく、成功の見返りの大きい新製品を開発できるのか。これが、本研究のテーマである。東芝、シャープ、富士通各社の日本語ワープロの事例をとりあげ、文献およびインタビュー調査を行った。

事例研究から以下のことが明らかになった。1) 製品ライフサイクルの導入期における新製品開発マネジメントは「技術主導型の新製品開発」といえるものである。技術集約的な製品では、要素技術の確立が重要な課題となり、市場ニーズに応えられるよう技術的蓄積をはかる。従って、技術・開発部門が新製品開発プロセスのイニシアチブをとる。2) 成長期の新製品開発マネジメントは「マーケティング主導型の新製品開発」といえる。この段階になると、多くの人々は製品を採用し始める。かれらのニーズは多様であり、そのなかには新製品に結びつく貴重なアイデアが多く存在する。それらのニーズを積極的に自社内に取り込み、技術的可能性とうまくマッチングさせることが重要になる。従って、成長期ではマーケティング部門が新製品開発プロセスのイニシアチブをとる。